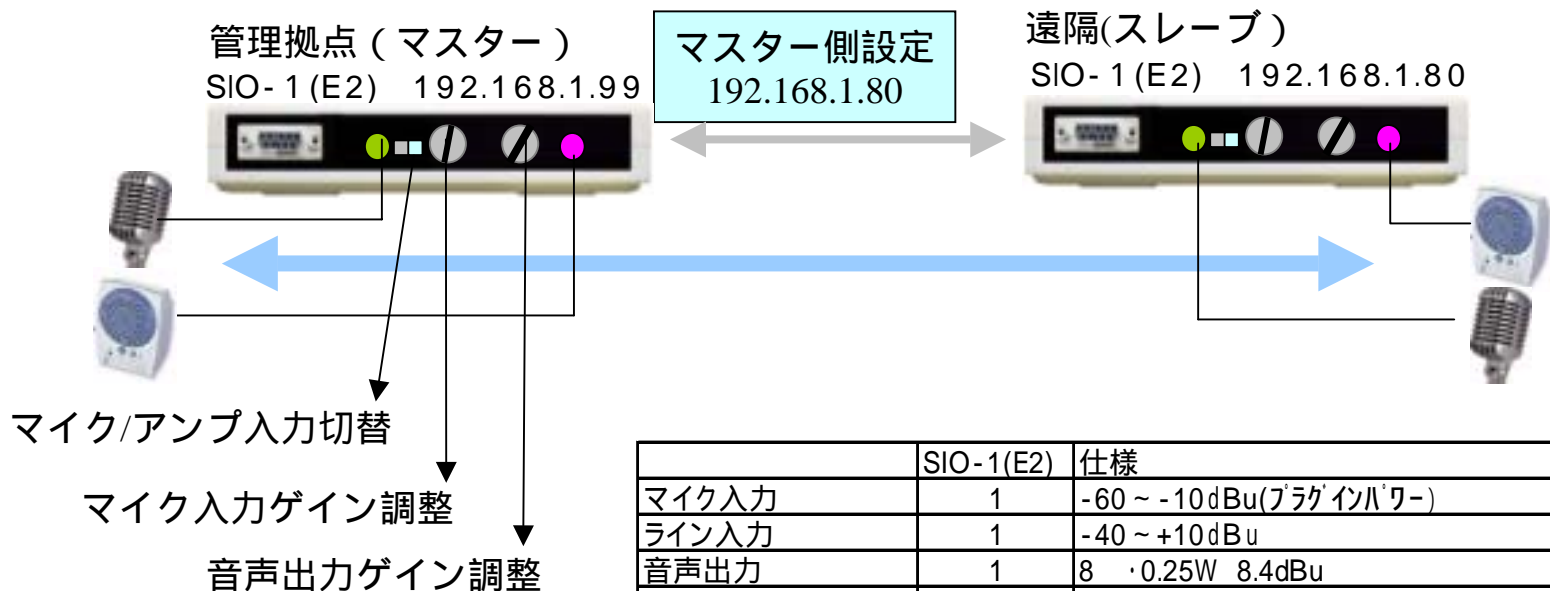


10 管理拠点から遠隔との音声通話が可能：SIO-1(E2)

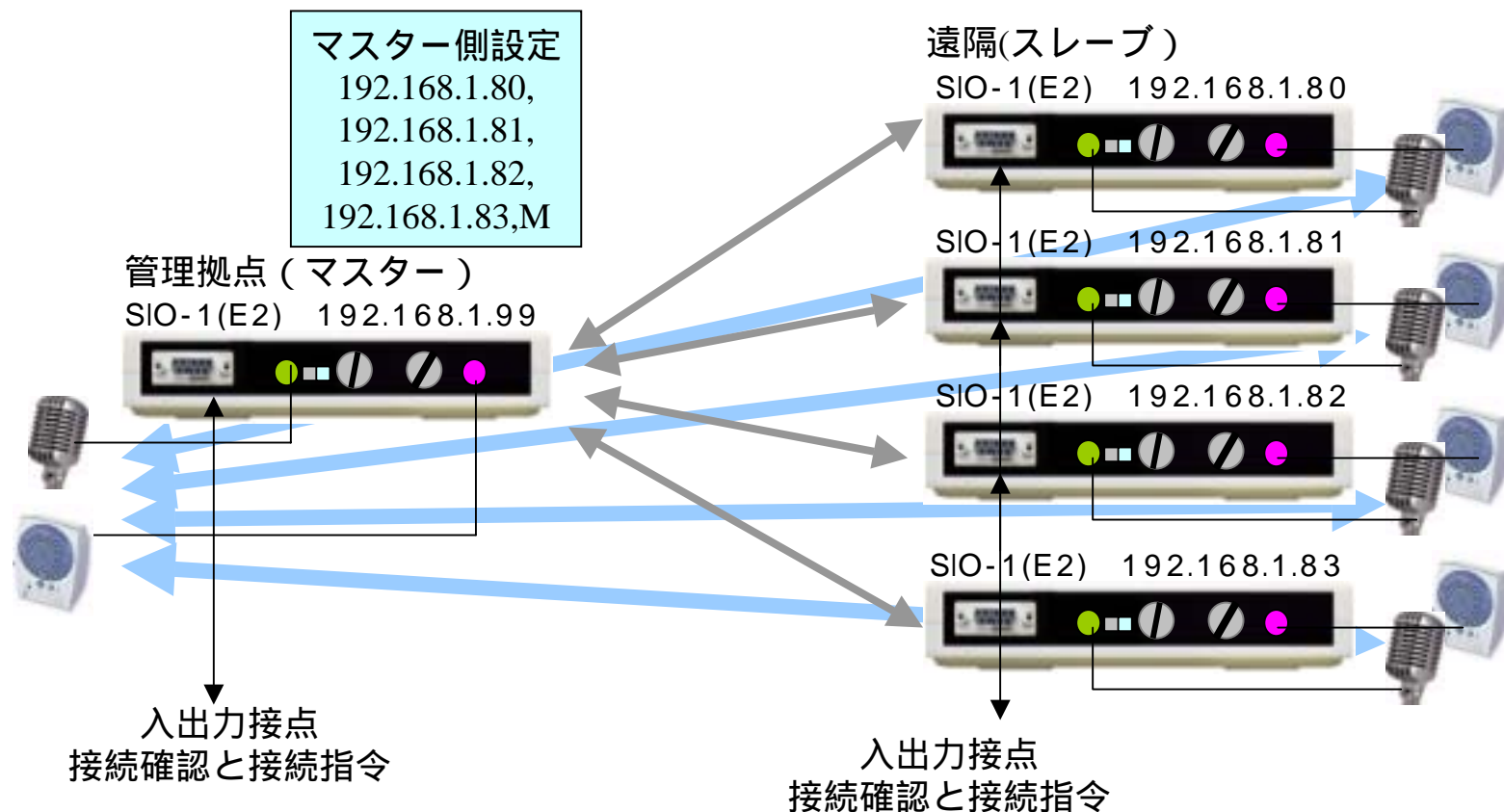
管理拠点からIPネットワーク経由で遠隔との音声通信（電話）が出来ます。
 マスター側に接続先スレーブのIPアドレスを登録しておきますと、マスターからスレーブへ自動的に音声接続が行われます。この接続は一時的な電源切断やネットワーク上の回線異常があっても自動的に回復します。
 接続中とか話中は接点出力で確認できます。



	SIO-1(E2)	仕様
マイク入力	1	-60 ~ -10dBu(プラグインパワー)
ライン入力	1	-40 ~ +10dBu
音声出力	1	8 · 0.25W 8.4dBu
伝送レート	2	32kb/s, 64kb/s切替
一斉同報通信	4	ポート
圧縮方式		ADPCM
接点入出力	8	フォトアラ絶縁、DC12V内臓(コネクタ添付)
通信方式	UDP	
各種設定	Webから	
マイク・スピーカー		3.5Eノル

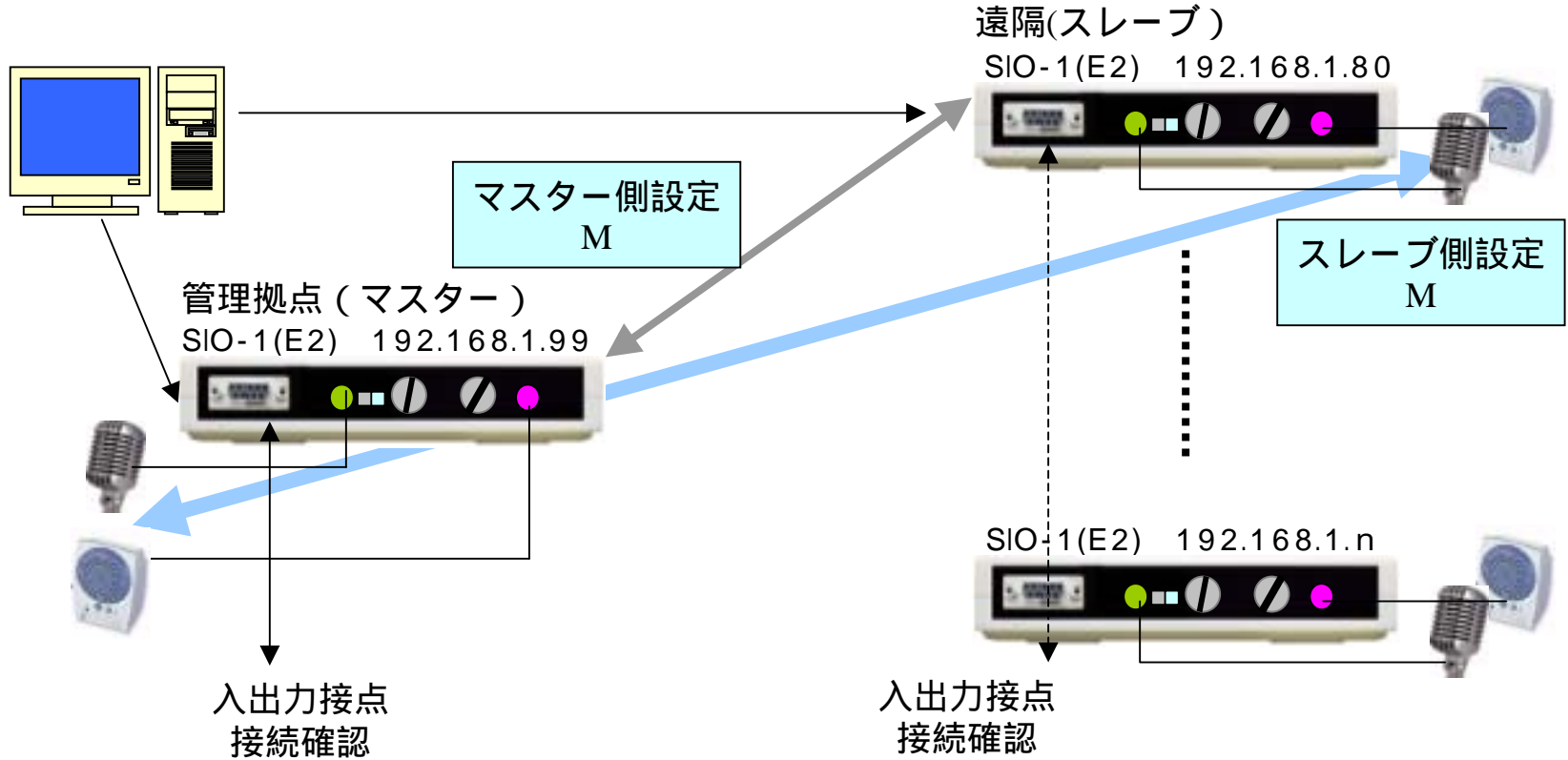
2管理拠点から遠隔4ヶ所との同時音声通信が可能：SIO-1(E2)

マスター側に4ヶ所の接続先スレーブのIPアドレスを登録しておきます。マスター側の4個の接点入力は登録した4ヶ所のスレーブと対応し、接点をオンすると対応するスレーブとの音声接続が行われます。複数の接点をオンすれば、マスターは対応するすべてのスレーブと接続します。マスター側のマイク音声は接続したすべてのスレーブに一斉通報されます。また複数のスレーブからのマイク音声は合成されてスピーカ出力されます。またスレーブの接点入力をオンしてスレーブからマスター側へ接続を開始することもできます。マスターとスレーブの双方から接点入力をオンして接続を試みた場合、片側が話中になります。接続中とか話中は接点出力で確認できます。



3) パソコンからの設定で管理拠点から任意の遠隔との音声通話が可能: SIO-1(E2)

パソコンからマスター側に任意の接続先のスレーブのIPアドレスを設定します。
この時点でマスターからスレーブへの通信が開始します。逆にパソコンからスレーブ側にマスターのIPアドレスを設定して、スレーブからマスターへの通信を開始することもできます。
接続中とか話中は接点出力で確認できます。



4 接点入力ユニットDIO-32/32(S)を使用 通言先設定が可能:SIO-1(E2)

DIO-32/32(S)にマスターのIPアドレスとマスターからの接続先スレーブ32ヶ所までのIPアドレスを設定しておきます。DIO-32/32(S)の入力接点をオンにすると対応するスレーブのIPアドレスの情報がマスターに通知され、マスターはこのIPアドレスでスレーブに接続を開始します。接続中とか話中は接点出力で確認できます。

